社会福祉法人晋栄福祉会

「ノーリフティング」をもっと多くの介護現場に

一般社団法人全国ノーリフティング推進協会第10回全国大会の報告

抱えない、持ち上げない介助による介護、「ノーリフティングケア」が、介護業界に浸透してきた。昨年11月、この考え方の普及・実践をめざす一般社団法人ノーリフティング推進協会(＊)が、大阪市内で第10回全国大会を開催した。協会の理事である社会福祉法人晋栄福祉会（本部：大阪府門真市）の濵田和則理事長が大会長を務め、同法人が大会運営を全面的にサポートした。大会の様子を晋栄福祉会ノーリフティング推進委員会のメンバーにうかがった。　（文　和田依子）

晋栄福祉会ノーリフティング推進委員会

委員長　宮浦辰典（みやうらたつのり）さん（神戸垂水ちどり 介護サービス課長）
推進委員　濵浦紳介（はまうらしんすけ）さん（ケアホームちどり 機能訓練指導員）
推進委員　仲村義昭（なかむらよしあき）さん（高山ちどり 機能訓練指導員）

宮浦委員長

晋栄福祉会のノーリフティングへの取り組み

―― 晋栄福祉会のこれまでの取り組みをお教えください

宮浦：業務時間中に起こる腰痛については以前から問題になっており、私どもでは比較的早い時期から移乗リフトなどの福祉用具を導入し、2018年には法人内で「ノーリフティング推進委員会」を立ち上げました。私は3年前から委員長をしております。グループ内のおもな高齢者施設で1人ずつ委員を決め、2か月に1度集まって、各施設の課題や取り組み状況などの情報共有をしています。

また、年に2回程度、一般社団法人ノーリフティング推進協会（＝協会）主催の「ノーリフティング一般研修」に法人が会場と講師を提供しています。2024年度は神戸垂水ちどり（兵庫県神戸市）とケアホームちどり（大阪府門真市）で開催し、私や濵浦さんが講師を務めました。各研修会にはおよそ十数名が参加し、2日間かけて理論と実践を学びました。

濵浦：その他、ふだんはそれぞれの事業所で、福祉用具の正しい使い方や介助の際の身体の使い方などの職員研修をしています。

―― 介護の現場に浸透してきましたか

宮浦：まだ十分とは言えない状況ですね。福祉用具を使うには、職員が2人必要になります。介助に時間もかかります。介護の現場は常に忙しいので、「1人でやるほうが早い」と言われてしまい、なかなか前に進みません。

実はご高齢者にもメリットが大きいのです。抱えて無理な移乗をすると、車椅子に正しい姿勢で座れず、食事もうまくできません。リフトを使って安定した形で座れると食事がきちんととれるようになります。ノーリフティングは職員の健康を守るだけではなく、ご高齢者の自立支援につなげるという目的もあるのです。

法人の全面サポートで、盛況な全国大会に

―― 大阪大会はどのような大会でしたか

宮浦：大変盛況で、全国から過去最高の380人が参加しました。職員の新規採用が難しくなっているので、今働いてくれている介護職員を大事にする意味でも、関心が高まっているのではないでしょうか。会場の別フロアで同時開催されていた「福祉機器展示会」に足を運ぶ人も大勢おられました。

メーカー5社による福祉機器の展示

関西医療大学大学院の鈴木俊明教授による基調講演では、「ノーリフティングというのは、何も道具を使うことだけではない。身体の動かし方を知って、無理のない介助をする感覚を身につけよう」ということが実践を交えて示され、有意義な内容でした。

濵浦：私は鈴木先生の講演で実演モデルを務めました。機能訓練で動作の誘導を行う際に、介助量が多い方に対して「過介助」になってしまうことがあるのですが、先生のやり方だと、介助されている私の身体が自然に誘導されている感覚がありました。同じ理学療法士としてすごく勉強になりました。

基調講演「ノーリフティングを実践するには、正しい動作の理解が重要である」でモデルを務める濵浦さん（左）

―― さまざまな法人の事例発表があったそうですね

宮浦：東京、愛知、広島などの8つの事業所が発表されました。晋栄福祉会からは高山ちどり（奈良県生駒市）の仲村さんが発表しました。

仲村さん

仲村：高山ちどりでは入所者様が高齢化、重度化しているので、リフトを導入しつつあるのですが、職員にどのように浸透させるのかを発表しました。

会場となったドーンセンター（大阪市中央区）

リフトを使ってベッドから車椅子、車椅子からベッドへ移乗するには、安全確保のためにそれぞれ20～30以上のチェック項目があります。施設では研修でその内容を説明し、理解しているか実際に使ってもらい「確認テスト」をするのですが、チェック項目をすべてクリアすることにハードルを感じる職員もいて、なかなか実際に使うところまで至っていませんでした。そこで「確認テスト」でのチェック項目を必要最低限の5項目程度に減らし、ハードルを低くしました。実際に使ってもらうと、「少し時間はかかるけれど、身体への負担は軽くなった」と職員も利便性を感じてもらえたようです。

―― 他法人の取り組みで、共感する事例はありましたか

濵浦さん

濵浦：介護業務のどの場面でいちばん身体に負担がかかるのかをアンケートを取って調べ、その改善方法を示した事業所の発表には、共感しました。発表では、ベッド上でのオムツ介助が取り上げられていました。ベッドの高さを上げて屈まないように介助すれば腰に負担がかからないのですが、忙しいのでついその手順を端折るということを続けていると、腰を痛めてしまうという発表でした。ベッドの高さを上げる時間は長くても20～30秒程度ですが、職員にはそれが長く感じてしまうのです。職員は常に複数人を介護し業務に追われているので、気忙しいのだと思います。私の施設でも、職員のふだんの行動を自覚してもらう意味でも、一度アンケートを取ってみたいと思いました。

研修講師ができる指導者の育成も

―― 今後、晋栄福祉会は何をめざしていきますか

宮浦：今後は、協会の一般研修の開催回数を、現在の年2回から3、4回に増やしていく予定です。そのためには、現在講師をしている私や濵浦さんのほかにもノーリフティングについて講義できる指導者を育成していきたいです。来年度はここにおられる仲村さんも指導者研修を受けて、一般研修の講師を務める予定です。

大事なのはノーリフティングの本当の意味や目的を理解している職員を法人のなかに増やしていくこと。ノーリフティングは職員の身体を守るだけでなく、ご高齢者も快適になり残存機能の維持にもつながることを知れば、「時間がないから」とか「面倒だから」という職員の意識も変わるのではないでしょうか。

また、各事業所に向けて、必要な福祉用具が必要なだけ設置されている状況となれるよう、発信していくことも私たち委員会の重要な役割と考えています。

＊一般社団法人全国ノーリフティング推進協会
オーストラリア発祥のノーリフティングポリシーの考え方を全国の法人・事業所で取り入れ、情報共有していこうと2014年に発足した。現在、全国で35法人が加入。各種研修のほか、年に一度全国大会を開催している。

OMMちどりキッズ　2024年12月開設
知育玩具で右脳アタック／たっぷりの運動遊び／リトミック教育
保育士（正職員・非常勤）募集中です!!
お気軽にお問い合せ下さい ※募集人数:若干名
〒540-0008　大阪府大阪市中央区大手前1-7-31
TEL（FAX）:06-6232-8105　E-mail:hoiku-omm@chidori.or.jp
アクセス　京阪電車、又は大阪メトロ谷町線『天満橋』駅下車 OMMビル1階
申しこみ　上記お電話、又はHPより https://www.chidori.or.jp